

算数科 小学校 4年

単元名「角とその大きさ」
啓林館 「わくわく算数4上」

単元の流れ（全13時間）

【第1次】

主な学習内容

- ◇第1時 角の大きさ比べをする。
- ◇第2時 回転板をつくり、様々な大きさの角をつくる。

「活用」の力の育成のために

- ・第1時 挿絵の三角形をノートに写して角の大きさ比べをする算数的活動を通して、角の形に関心をもたせる。
- ・第2時 回転板を操作する算数的活動を通して、いろいろな大きさの角を理解させる。

【第2次】

主な学習内容

- ◇第3時 分度器の使い方を知り、様々な大きさの角を測定する。
- ◇第4時 180° までの様々な大きさの角を測定する。
- ◇第5時 三角定規の角の大きさを知る。
- ◇第6時 180° までの角を作図する。
- ◇第7時 45°、180°、270°、360° などの特別な角を知る。
角の仲間分けをする。

「活用」の力の育成のために

- ・第5時 一組の三角定規の組み合わせパターンがいくつできるかを競わせながら、三角定規の角の大きさを定着させる。

「知識・技能」を定着させるために

- ・第3時 教室の提示を工夫することにより、分度器の操作方法と角度のはかり方を定着させる。
- ・第3時～ 角度を予想させてから測定させ、見当をつける力を身に付けさせる。
- ・第6時 見当をつけさせ、角の大きさをイメージさせながら、作図をさせる。

単元目標

○角の大きさを回転の大きさにとらえて角の大きさの測定する。また、ある大きさの角を作図する。

単元構成の意図

教科書では 180° までの角度をはかった後で、180° 以上の角をはかり、角をかく練習を取り入れた後に三角定規の角について学習をしていく計画になっている。

しかし、分度器には、2通りの角度の目盛りがついているために 180° までの角だけでも読むことが難しい。

そこで、習熟を図る時間を十分に取るため

- ①180° までの角のはかり方かき方
- ②三角定規の角と 90°、180°、270°、360° などの角

③180° 以上の角のはかり方かき方を取り入れて、単元を構成した。

また、2本の辺にはさまれた角は2つあるため、毎時間、大きさをはかる角を指で確認してから角度をはかることと、おおよその角度を予想してからはかることを取り入れた。



【第3次】

主な学習内容

- ◇第8時 180° より大きい角の大きさをはかる。(本時)
- ◇第9時 180° より大きい角の大きさを作図する。

「活用」の力の育成のために

- ・第8時 課題解決のためのグループ交流を通して、いろいろな解決方法やそのよさについて考えさせる。
- ・第8時 相手に分かりやすく話すことができるよう、意識させながら、自分の考えを書かせる。

【第4次】

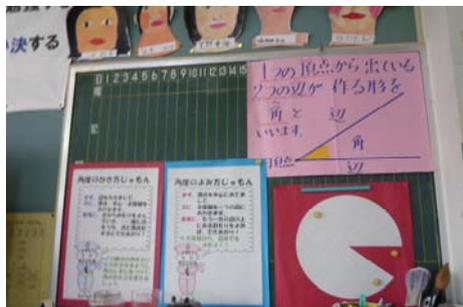
主な学習内容

- ◇第10、11時 練習問題を解く。
- ◇第12時 発展問題を解く。
- ◇第13時 評価テストをする。

評価問題 **CLICK**

CLICK

1時間ごとの
単元の流れは
こちら



「活用」の力を育てる ポイント

- ①測定する活動や調べる活動などの算数的活動を取り入れることで、場面の把握ができるようにする。
 - ・90°、180°、270°、360°の感覚を大切に育てて、大体の大きさを予想しながらはからせる。
 - ・角度は足したり、引いたりできることから一組の三角定規を使って、様々な角を自分たちで作らせる。
- ②自分の考えを根拠を明確にし、筋道を立てて説明できるようにする。
 - ・自分の言葉で友達に説明できるように、ワークシートやノートに記述する。
 - ・グループで交流をすることで、自分の考えをより分かりやすくまとめ、友達に分かるように説明できるようにさせる。また友達の考えを聞き、振り返って考えさせる。

「知識・技能」定着のための ポイント

- ①大きさをはかる角を指で確認させる。
- ②予想を立ててから、実測させる。
- ③児童の購入した分度器を拡大したものを黒板用として準備し、問題毎に実際に児童が用いて説明する。

HOME

本時の流れへ